

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 マネジメント分野	修了年度	平成 31 年度
氏名	反保 太一	指導教員 (主査)	藤井 仁

論文題目	災害看護学における教員の研修への参加と教育方法との関連に関する研究
------	--

本文概要

【目的】

災害看護学の教育を行う際に、体験型学習を含むか否かを左右する要因について探索的に分析し、災害看護学を担当する講師の体験型学習の経験が教育方法に反映されているか否かを明らかにする。また、体験型学習の採否に影響を与える要因について明らかにする。

【方法】

研究デザインは横断研究である。研究対象は、看護専修学校3年課程において災害看護学を担当する教員とした。全国537校のうち筆者が関係する2校を除く535校の担当教員を対象に調査表を配布し、同意を得られた教員に対し調査を実施した。得られた結果は単純集計した後に、IBM SPSS (Ver. 24) を用い統計学的分析を実施した。

【結果】

災害看護研修を受講した教員は、災害看護の研修を受講していない教員に比べて、講義形式の教育を行っている項目が多く認められた (McNemar 検定、 $p < 0.05$)。災害看護の研修を受講した際に演習を行なった教員の方が自身の教育に際しても演習を取り入れていた (χ^2 乗検定、 $p < 0.05$)。看護師としての経験年数と演習を取り入れた教育との関連については、看護師経験年数が長いほど演習を取り入れた教育が行われていた (t 検定、 $p < 0.05$)。

【考察】

入江 (2015) は、すべての教員がアクティブラーニングの正しい概念を理解することと並行して、教員自身が学習者主体の授業に学習者として参加してみる体験が必要であると述べている。教員が災害看護の研修で演習に参加することで、教員自身が学習者としての学びのあり方や深まりを実感し、演習を含む体験型の学習を教育に取り入れることにつながると考える。岡谷 (2019) は、講義で学習した知識を実際の経験学習によって活用するということをセットにしたカリキュラムや授業方法の工夫が重要であると述べている。体験型学習を組み込んだ教育は、講義形式の授業で知識を身につけ、演習により体験としての学びを深めることにつながると考えられる。

【キーワード】

災害看護、看護基礎教育、災害看護教育、カリキュラム